

番号	コード						名称	所在地	年代		由緒由来の概要	資料名
	町名	有形・無形	現存・非現存	大分類	中分類	和暦			西暦			
131	5 静内町	1 有形	1 現存	1 産業	1 農業	農林水産省 家畜改良センター新冠牧場 (旧新冠種畜牧場、 旧新冠御料牧場)	御園	明治5	1872	明治5(1872)、開拓使長官黒田清隆が牧馬改良のために門別町、新冠町、静内町に渡る面積約7万haに及ぶ牧場をつくり、そこに野馬を移牧したのが始まり。この野馬は、文化2(1805)に徳川幕府が開いた虻田、有珠、浦河の牧馬場とその分場が明治になって廃止され、一部が野生化したものといわれ、明治6(1873)には2,262頭の野馬が集められた。 明治10(1877)に、開拓使雇いの農業技師エドウィン・ダンが面積を10分の1として縮小し、新牧場を洋式の牧場として建築して牧場名を新冠牧馬場と定め、明治19(1886)には宮内省御料局の所管となり新冠御料地に、明治21(1888)には宮内省主馬寮に移管され新冠御料牧場と改称された。この時、アイヌ約400人を奥地のアネサルへ強制移住させ、大正5(1916)にはアネサルのアイヌ全60戸を平取町ヌキベツに強制移住させた。 昭和22(1947)に農林水産省所管新冠種畜牧場、平成2(1990)に現在名に改称し、現在は、乳用牛の改良増殖を行っている。	史跡と名勝、続新冠町史、増補改訂静内町史下巻、アイヌ差別問題読本、日高今昔叢誌	
132	5 静内町	1 有形	1 現存	1 産業	4 商業	旧武岡商店	東静内 (江別市北海道 開拓の村に移設)	明治15	1882	武岡清吉が開店した雑貨店で大正末期まで続けられた。 静内町ではもっとも古い店で、この建物は昭和58(1983)に明治の商家として東静内から北海道開拓の村に移設された。 建物は、木造平屋建て240㎡、入り母屋造りでマサキ屋根、間口約17m、和洋折衷の建築様式で、クサビやクギを全く使わず組み立てられている。玄関から向かって左側の商店部分が従来の日本式引き戸に対し、反対の住宅部分は洋風の窓が設けられ、玄関のひさしもアーチ型となっている。	増補改訂静内町史下巻	
133	5 静内町	1 有形	1 現存	1 産業	7 道路	静内橋	静内川	明治39 (創建)	1906	明治32(1899)に苫小牧から静内に至る国道が開設されたが、染退川に橋梁がなく、当時の西浦河支庁長を始めとした運動により、明治39(1906)に当時として最新技術による鉄筋コンクリート製橋桁の木橋が架設された。 その後、昭和10(1935)に日高支庁管内初のワートントラス式鋼橋として架橋されたが、現在の橋は昭和44(1969)に架け替えられたものである。	増補改訂静内町史上巻、史跡と名勝	
134	5 静内町	1 有形	1 現存	1 産業	7 道路	二十間道路	農林水産省 家畜改良センター 新冠牧場内	明治36	1903	直線で7km、幅36mの町道で、大正5(1916)から3年を費やして道路の両側及びその周辺に約1万本のエゾヤマザクラが植えられ、開花期には全国から多数の観光客が訪れる。 「旧行啓道路」、明治の御料牧場では「中央道路」といわれ、大正時代に通称「二十間道路」といわれていた。	増補改訂静内町史上巻、同下巻	
135	5 静内町	1 有形	2 非現存	1 産業	8 その他陸運	静内町の駅運	静内	不明	不明	19世紀の初頭、江戸幕府が蝦夷地を直轄した時代に、会所や運上屋が整備され、運送、人馬継立、宿泊などの駅運業務を行ってきたが、開拓使時代以降にも駅運所が設けられ、取扱人をおき、手当てと官馬を支給し、旅行者や開拓移民の拠点として、また、各地域間の通信業務を担当してきた。 静内の駅運所は、会所元である東静内で佐野専左衛門が取り扱っていた。明治3(1870)からは静内支配を命じられた稲田邦植が駅運事務を掌管した。明治5には稲田家の静内郡支配が罷免され、本庁の管轄となって改めて漁場持山田栄六の取扱いとなった。明治15(1882)に静内駅運所が廃止され、下下方村に下下方駅として新設された。その後、鉄道開通や自動車の出現によって廃止、廃業となっている。	増補改訂静内町史下巻	
136	5 静内町	1 有形	2 非現存	1 産業	9 水運・海運	染退(しべちやり)川渡船場	染退川河口	寛政11	1799	明治39(1906)に静内橋が架設されるまで、丸木舟などを使つての船渡しを行っていた。	増補改訂静内町史下巻	
137	5 静内町	1 有形	2 非現存	1 産業	9 水運・海運	静内の渡船場	—	—	—	染退川の渡船場は、寛政11(1799)頃から明治39(1906)に静内橋が架設されるまでの間、丸木舟などを使つての船渡しがあり重要な交通手段であった。 また、国道筋のほか、市父間にも、渡辺以平移住田の私設渡船場があり、昭和2(1927)には拓殖費支弁によって公用されたが、昭和7(1932)に碧葉端が新設されたことにより廃止された。	増補改訂静内町史下巻	
138	5 静内町	1 有形	1 現存	2 宗教	10 寺社等	稲基神社	御殿山	明治4 (創基)	1871	稲田家一代の祖先の霊社、洲本市の稲田屋敷の裏に祭られていたが、北海道移住とともに移された。 現在の神社は昭和61(1986)に建替えられたもの。	増補改訂静内町史下巻	
139	5 静内町	1 有形	1 現存	2 宗教	10 寺社等	金刀比羅神社	東静内	江戸時代 (創基)	不明	明治以前から存立し、元静内から会所移転の際、現在地に移転され、昭和63(1988)に改築された。 木製樫渡辺綱羅生門の図、木製桐韓信潜股の図などの宝物がある。	増補改訂静内町史下巻	
140	5 静内町	1 有形	1 現存	2 宗教	10 寺社等	静内神社	御幸5-7-28	不明	不明	旧称神武天皇社といひ、記録によると天保(1830)の初めには存立していたといわれる。 大正8(1919)に蛭子神社を合併し、昭和5(1930)に静内神社に改称した。昭和19(1944)に池内ベニヤ工場付近から現在地に移設し、昭和40(1965)に本殿を木造流れ造りなどに建替えられた。	増補改訂静内町史下巻	
141	5 静内町	1 有形	1 現存	2 宗教	10 寺社等	双川神社	農屋	明治3? (創基)	1870?	静内川上流、双川の中島にあった。シベチャリ川砂金採取の鉱夫たちが水神を奉ったものと伝えられる。昭和33(1958)、現在地に移転された。	増補改訂静内町史下巻	
142	5 静内町	1 有形	1 現存	2 宗教	10 寺社等	元漁神社	東静内	江戸時代 (創基)	不明	寛政年間に弁天社として元静内に存立、会所の移転とともに東静内に移転し、現在のものは大正7(1918)に営造したものである。	増補改訂静内町史下巻	
143	5 静内町	1 有形	1 現存	2 宗教	10 寺社等	皇祖神社	御幸	明治4 (創基)	1871	当初、神社がなかったことから、稲田邦植が神武天皇を祭神として奉祀した。	増補改訂静内町史下巻	
144	5 静内町	1 有形	2 非現存	2 宗教	10 寺社等	頓成寺	東静内	明治3	1870	東京増上寺が末寺として建立したが、1ヵ月後、稲田家が引き継ぎ、役宅として移住したので廃止された。明治4(1871)にその建物を仮校舎として私学益智館を開校され、数ヶ月足らずの歴史を閉じた。	増補改訂静内町史下巻	
145	5 静内町	1 有形	2 非現存	2 宗教	10 寺社等	蛭子神社	不明	明治元	1868	佐野専左衛門が豊漁を祈るために、事代主神を奉仕した。大正8(1919)に神武天皇社と合併し、静内神社となった。	増補改訂静内町史下巻	
146	5 静内町	1 有形	1 現存	4 教育	11 碑・像等	益智館(頓成寺)跡の碑	東静内69 (金刀比羅神社境内)	平成2	1990	兵庫県淡路島から静内に移住した旧稲田家家臣が、この地にあった増上寺末寺の頓成寺を仮校舎として子弟の教育を始めた学問所益智館の跡地に建立された碑	増補改訂静内町史下巻	
147	5 静内町	1 有形	1 現存	99 その他	11 碑・像等	北辺開拓の礎碑	目名	昭和43	1968	明治4(1871)、稲田家主従546名が東静内に上陸、幾多の苦難を乗り越え開拓を行った偉勲をしのび、北海道稲田会が建立。	増補改訂静内町史下巻	
148	5 静内町	1 有形	1 現存	99 その他	11 碑・像等	開拓者集団上陸地記念碑	春立 (元静内)	昭和55	1980	静内町百年記念事業による史跡標示地の一つとして、明治4(1871)、稲田家主従546名がこの地に上陸したことを記念して建立された碑	増補改訂静内町史下巻	
149	5 静内町	1 有形	1 現存	99 その他	11 碑・像等	静内会所跡の碑	東静内61-13	平成2	1990	安政5(1858)に東静内に移され明治までその姿を留めたといわれている静内会所の跡地に建立された碑。	増補改訂静内町史下巻	

番号	コード							名称	所在地	年代		由緒由来の概要	資料名
	町名	有形・無形		現存・非現存		大分類	中分類			和暦	西暦		
		1	2	3	4								
150	5 静内町	1 有形	1 現存	99 その他	11 碑・像等	百年の赤松の碑	神森161 (皇祖神社内)	昭和56	1981	明治6(1873)、稲田邦植の妹陽たちが渡道のため陸路静内に向かった際、青森県三本木で赤松の松かさをとって移住者に分け発芽したものといわれる赤松にちなんで建立された碑。	増補改訂静内町史下巻		
151	5 静内町	1 有形	1 現存	99 その他	11 碑・像等	稲田家屋敷跡の碑	目名314-1	平成3	1991	明治4(1871)、開拓のため静内に移住した元徳島藩洲本城代家老稲田邦植の屋敷跡に建立された碑。 この屋敷は、邦植の弟稲田邦衛が長く居住し、大正15(1926)まで姿を留めた。	増補改訂静内町史下巻		
152	5 静内町	1 有形	1 現存	99 その他	11 碑・像等	東静内漁場跡の碑	東静内51-1	平成3	1991	往時、この地には場所請負人の漁場があり、一帯には倉庫や番屋が立ち並んでおり、明治4(1871)、静内に移住した旧稲田家臣の一人はこれらの建物を仮の宿としていたが、火災のため衣類、夜具、その他諸道具を分蔵していた倉庫を焼失した。その跡地に建立された碑	増補改訂静内町史下巻		
153	5 静内町	1 有形	1 現存	99 その他	11 碑・像等	ジャクシャイン城跡の碑	真歌山	昭和34	1959	寛文9(1669)に和人と戦ったジャクシャインの居城の跡に建立された碑	増補改訂静内町史下巻		
154	5 静内町	1 有形	1 現存	99 その他	11 碑・像等	ジャクシャインの像	真歌山	昭和45	1970	寛文9(1669)に和人と戦ったシベチャリアイヌの長ジャクシャインの像で、竹中敏洋の作品。	増補改訂静内町史下巻		
155	5 静内町	1 有形	1 現存	99 その他	11 碑・像等	「お登勢」の碑	田原 (二十間道路)	昭和50	1975	船山肇の小説で明治の静内開拓を描いた「お登勢」がテレビドラマになったのを機に設置されたもの。幕末から明治維新にかけて生きた徳島藩家老稲田九郎邦植とその家臣の静内移住と開拓の物語を描いたので、登場人物のモデルの一人が岩根静一といわれる。	増補改訂静内町史下巻、エドウィン・ダンと新冠牧馬場の歴史への誘い		
156	5 静内町	1 有形	1 現存	5 伝統	12 史跡等	入船遺跡	入舟町7	-	-	入船チャシに通ずる登り口に面していた。3基の墓壇、大狩部式土器、恵山式土器、後北(江利)式土器、彩色土器、北大式土器、裏面にろくろによる整形痕のある土器が出土。	増補改訂静内町史上巻		
157	5 静内町	1 有形	1 現存	5 伝統	12 史跡等	入船チャシ	入船町15	-	-	漆器、木製、鉄斧、キセル、鉄鍋などが出土。一部は道指定遺跡シベチャリのチャシに含まれる。	増補改訂静内町史上巻		
158	5 静内町	1 有形	1 現存	5 伝統	12 史跡等	御殿山チャシ跡遺跡	目名322	-	-	チャシの溝は方形に掘られ、川上流一帯と河口を見わたせる。 松浦武四郎の東蝦夷日記に「金丁文四郎はメナブトに住し」とあり、「寛文9年蝦夷の乱」に登場する金堀文四郎がアイヌのチャシを模して設けたものと考えられる。北筒式土器、大狩部式土器が出土。	増補改訂静内町史上巻		
159	5 静内町	1 有形	1 現存	5 伝統	12 史跡等	御殿山文四郎館遺跡	目名322	-	-	寛文9(1669)、ジャクシャインは金堀文四郎を訪れたオニビシを襲撃して殺害したが、当地点が文四郎の館跡といわれる。	増補改訂静内町史上巻		
160	5 静内町	1 有形	1 現存	5 伝統	12 史跡等	駒場7遺跡	枯台43	-	-	縄文時代の土器と石器が多数確認。土器は、早期の貝殻文と竹管連続押文が多いが、中期の北筒式土器も少量発見。石斧、石錘、石小刀なども発見されている。	増補改訂静内町史上巻		
161	5 静内町	1 有形	1 現存	5 伝統	12 史跡等	駒場貝塚遺跡	駒場43	-	-	榊田鶴次郎が馬耕の際に発見したのが最初である。エゾシカ、ヒグマ、ト等の獣骨類、ホッキガイ、ホタテガイ等の貝類、ヤス等の骨角器、鉄なべ、マキリ等の金属器などが出土。	増補改訂静内町史上巻		
162	5 静内町	1 有形	1 現存	5 伝統	12 史跡等	豊畑遺跡	豊畑254-3・4	-	-	静内川河口より約12km上流の台地。縄文時代早期の田原式土器、前期の中野式土器のほか、長さ14cm、幅8cm、厚さ2cmで一端に打撃痕が見られるが、刃部加工跡のない黒曜石のスクレーパーが発見されている。	増補改訂静内町史上巻		
163	5 静内町	1 有形	1 現存	5 伝統	12 史跡等	中野台地A遺跡	清水丘75の2	-	-	静内中野式土器の最初の発見遺跡。北筒式土器を包含し、石鏃、石槍なども出土。	増補改訂静内町史上巻		
164	5 静内町	1 有形	1 現存	5 伝統	12 史跡等	ハンケベラリチャシ跡	豊畑930-1	-	-	昭和33(1958)、静内高校郷土研究部により発見される。面崖式のチャシ跡。十勝アイヌと農屋アイヌとの古戦場であったという伝承がある。	増補改訂静内町史上巻		
165	5 静内町	1 有形	1 現存	5 伝統	12 史跡等	ホヨのチャシ跡	高見	-	-	静内ダムの手前左岸。沢の入口先端、標高約90m。丘先式のチャシ跡。ジャクシャインの戦いの少し前、老アイヌ夫婦がメナシベツ川を下ってきた十勝の群盗の首領を、このチャシから射た1本の矢によつて岩(ライクル岩、ホトケ岩)に貼り付け、そのために驚いた群盗は逃げ帰ったという伝承がある。	増補改訂静内町史上巻		
166	5 静内町	1 有形	1 現存	5 伝統	12 史跡等	静内御殿山墳墓群及び遺物	目名322 (稲田神社)	-	-	静内御殿山墳墓群は、静内川河口の北東約4.5キロにあり、縄文時代後期から晩期にかけての大規模な墳墓群で、積石墳墓となっており、昭和27(1952)に発見され、約80の墓壇、人骨、土器、首飾り、櫛、石棒、土人形などの副葬品が出土し、和38(1963)に北海道の史跡に指定された。また、出土した土器は、土瓶のような注ぎ口のある注口土器で静内御殿山式土器と呼ばれ、その他の遺物とともに、昭和43(1968)に北海道の有形文化財に指定された。	増補改訂静内町史上巻、日高支庁(商工観光課)HP、日高今昔叢誌、管内概要ひだか		
167	5 静内町	1 有形	1 現存	5 伝統	12 史跡等	シベチャリのチャシ	真歌 (真歌公園内)	-	-	丘先式チャシであるが、標高80mの崖に面しており、面崖式とも見れる。以前は、三重の溝があり、耕作のために外側と中の溝は埋められた。陶器、漆器、鍋釜、布などが出土、柱穴などもある。「寛文9年蝦夷の乱」と関係するチャシで、規模も道内屈指であるため、昭和26(1951)に道指定遺跡となる。町民は「ジャクシャインのチャシ」と呼ぶ。	増補改訂静内町史上巻、日高支庁HP		
168	5 静内町	1 有形	1 現存	5 伝統	12 史跡等	シベチャリ川流域チャシ群	-	-	-	寛文9(1669)のジャクシャインの戦いに深く関わるチャシとして、門別町のアツベツチャシ跡とともに、真歌のシベチャリチャシ跡、入船のホイナシリチャシ跡、目名のメナチャシ跡、農屋のオチリチャシ跡、豊畑のリオビラチャシ後の5ヶ所が、平成9(1997)に国の史跡に指定された。	管内概要ひだか		
169	5 静内町	1 有形	2 非現存	4 教育	13 学校	益習館	東静内	明治4	1871	淡路島から移住した旧稲田家臣が頓成寺を仮校舎として子弟の教育を始めた学問所。翌年、目名に移転し、目名教育所と改称され、高静小学校の前身となる。	増補改訂静内町史下巻		
170	5 静内町	1 有形	1 現存	1 産業	14 その他建築物	龍雲閣	御園 (家畜改良センター新冠牧場内)	明治42	1909	農林水産省家畜改良センター新冠牧場用地内にあり、もと宮内省主馬寮に属する御料牧場内にあったので、頭名名士の宿所として明治41(1908)に着工して翌年完成したものの。 御殿造木造一部二階建、屋根銅板葺き(当初は檜葺きを経る)、階下335m階上140m。 明治42(1909)には伊藤博文の案内で当時の韓国皇太子李良が、明治44(1911)には皇太子のころの大正天皇などが宿泊している。 大正11(1922)に宮内庁主馬頭伊藤博邦(伊藤博文の息子)が龍雲閣と命名したが、長い年月の間に荒廃が激しくなったので、昭和47(1972)に大修復工事を行う。 宝蔵物として谷文晁の掛け軸、狩野探幽の屏風、伊藤博文 揮毫軸、伊藤博邦 揮毫額、その他 皇族使用の家具・食器・馬具などを有するが、建物内部は通常一般公開されていない。	増補改訂静内町史上巻、同下巻、史跡と名勝、新諸国物語わがまち再発見北海道212文化編、日高今昔叢誌		

番号	コード						名称	所在地	年代		由緒由来の概要	資料名
	町名	有形・無形	現存・非現存	大分類	中分類	和暦			西暦			
171	5 静内町	1 有形	1 現存	1 産業	14 その他建築物	旧新冠種畜牧場 執行事務所	御園 (家畜改良センター 新冠牧場内)	大正9	1920	大正9(1920)に新築、落成し、昭和45(1970)、旧新冠種畜牧場及び龍雲閣の管理等のために使用されていた。	静内町観光協会資料	
172	5 静内町	1 有形	1 現存	3 生活	14 その他建築物	静内温泉	浦和	明治35	1902	金子志蔵が発見したもので、明治36(1903)に温泉旅館を開業するが、冷泉のため経費がかかり建物も老朽化したため昭和32(1957)頃廃業した。昭和51(1976)、含重曹硫黄泉で各種病気に効果があることが分かり、町民保養ホーム(静内温泉)として整備され、多くの人に利用されている。	増補改訂静内町史下巻	
173	5 静内町	1 有形	2 非現存	1 産業	15 人物	エドウィン・ダン	—	嘉永元～ 昭和6	1848～ 1931	アメリカ、オハイオ州スプリングフィールドで生まれる。明治6(1873)、北海道開拓使顧問ホーレス・ケブロン將軍の要請で、開拓使雇いの農業教師として、25歳のときに来日し、明治9(1876)に札幌官園へ赴任して牧場の整備を行った。明治10(1877)には、明治5(1872)に黒田清隆開拓使長官が開設した新冠牧場を視察し、洋式牧場として馬匹改良事業を行い、アメリカ産の種牡馬の輸入と改良、厩舎や牧槽の建設、飼育作物の栽培などについて指導した。しかし、明治12(1879)に静内川の洪水があり、明治14(1881)には、パンタ、野犬、狼などの害が相次ぎ、農場整備にはたいへん苦労があったといわれる。特に、エゾオオカミによって90頭の子馬がすべて殺されるなど多大な被害があったので、東京や横浜、サンフランシスコからストリキニーネを取り寄せて駆除したが、これがエゾオオカミを絶滅させた原因の一つといわれる。ダンの指導は牛の飼育、牧場の整備などとどまらず、バター、チーズ、練乳の製造、ハム、ソーセージの加工など精力的に仕事を行った。明治15(1882)に任期を満了し離道するが、明治17(1884)には外交官として再来日し、明治26(1893)には駐日米国公使として活躍した。昭和6(1931)、東京都代一木の自宅で没する。	エドウィン・ダン記念館HP、増補改訂静内町史上巻、エドウィン・ダンと新冠牧場の歴史への誘い	
174	5 静内町	1 有形	2 非現存	5 伝統	15 人物	鷺塚鷺太郎	農屋	明治13～ 昭和28	1880～ 1953	ユーカラとそれに限らずアイヌ民族文化の優れた伝承者で、多くの研究者の業績にその名が記録されている。	北海道歴史人物辞典	
175	5 静内町	1 有形	2 非現存	5 伝統	16 民話・伝説等	織田ステ	—	明治39～ 平成5	1902～ 1993	アイヌ民族叙事詩ユーからの伝承者。静内町で生まれ、祖母にアイヌ民族の風習、生活文化、言葉や、ユーカラをはじめ幅広く民族文化を承継し、町内外の研究者の調査に積極的協力して保存に努めた。ユーカラの一部が『静内地方の伝承—織田ステノのⅠ、Ⅱ、Ⅲ』としてまとめられた。昭和59(1984)、道文化財保護功労者として表彰される。	北海道歴史人物辞典	
176	5 静内町	1 有形	3 不明・その他	5 伝統	16 民話・伝説等	染退(しべちやり)金山	染退川上流	不明	不明	昔、染退川は下流コタンの命の水で、毎年秋には多くの鮭が獲れたが、ある年急に濁りだして鮭が獲れず、飲料水にも事欠くようになった。それはこの山奥に金山が発見され、多くの和人が入り込んで盛んに採金したため川が濁ることを知り、それ以来、金山の所在を一口外しなしいこととしたので今でも誰も知らないという。	増補改訂静内町史下巻	
177	5 静内町	2 無形	1 現存	5 伝統	16 民話・伝説等	喜平沢	—	—	—	由来1 昔、静内川上流に金山があって賑わっていた頃、この金山の飯場に喜平という飯炊き男がいたが、ある日、珍しい山菜を摘んできて味噌汁に入れたところ、それを飲んだ鮎員が皆苦しみだし死者が続出した。喜平は大いに驚いて里にこの悲報を伝えるため小屋を出て走ったが、途中自責の念に耐えられなくなり道端に座って自刃した。その場所がキヘイナイと呼ばれている場所で、喜平の摘んだ山菜は毒草のフシであらうといわれる。 由来2 シャクシャインの戦いに加担した金掘りの喜兵衛がここへ逃げきて、あまりの空腹に草の根等を掘って食べていたが、あるときアイヌの一人が毒矢に使うトリカブトの根を掘っているのを見て、これも食えると思って食べたところたちまち死んでしまった。その場所をキヘイナイという。	北の生活文化7北海道の口承文芸	
178	5 静内町	2 無形	1 現存	5 伝統	16 民話・伝説等	田原大沼	田原	—	—	昔、トウブツという大きな沼があって大蛇が住んでいた。あるとき、原島某が同族数人とともに移住してきたが、一帯に沼沢が多く蛇がたくさんいたので、沼岸に神座を設けて7日7晩祈禱をしたところ、ついに大蛇は姿を消した。	北の生活文化7北海道の口承文芸	
179	5 静内町	2 無形	1 現存	5 伝統	17 祭事・芸能	静内町民族文化保存会	—	—	—	昭和59(1984)に国の重要無形民族文化財に指定された「アイヌ古式舞踊」の保存団体として、同年に指定され、その伝承を行っている。	増補改訂静内町史下巻	
180	5 静内町	1 有形	1 現存	4 教育	99 その他	静内町アイヌ民族資料館	真歌	昭和57	1982	アイヌの一人の生活、風俗、習慣などを歴史的、文化的に正しく理解してもらうことを目的としている。静内地方のアイヌの一人が日常生活に用いた民具や儀式に使われた道具類が100種類以上500点余りを収蔵している。「送り」儀式に用いられたと思われるエゾオオカミの頭蓋骨は国内で唯一残された資料となっている。	増補改訂静内町史下巻、胆振・日高地区の博物館郷土資料館めぐり、日高支庁HP、北海道新博物館ガイド	
181	5 静内町	1 有形	1 現存	4 教育	99 その他	静内町郷土館	古川町	昭和27	1952	旧公民館に郷土室を設けて、静内町で発掘された埋蔵文化財やアイヌ民族資料などを展示した。昭和36(1961)に旧役場庁舎を改造して郷土館図書館とし、昭和40(1965)に新たに建てられた公民館に移転する。昭和49(1974)には、図書館が移転したことにより独立施設となり、御殿山ケール出土品などの考古資料、稲田家以来の開拓資料と開拓当時の民具、動植物標本等を展示している。	増補改訂静内町史下巻、日高支庁HP	
182	5 静内町	1 有形	1 現存	5 伝統	99 その他	染退水源之記 (しべちやりすいげんき)	—	文久3	1862	静内の開拓の歴史が始まる前に、静内川の水源を求めて現地人を案内人として探検した山信恭が静内奥地の様子を1300余字の漢字文に記したものである。山信恭は、安政5(1858)から慶応元(1865)の7年間蝦夷地に滞在し、その間、文久2(1862)から元治元(1864)まで様似で過ごした山内作右衛門であることがつきとめられ、その全文が解読された。	増補改訂静内町史上巻	
183	5 静内町	1 有形	1 現存	5 伝統	99 その他	神森の赤松	神森 (皇祖神社)	明治初期	不明	明治初めに、静内町開拓の祖である徳島藩本城代家老稲田九郎兵衛の家臣により植栽されたものといわれるアカマツ。昭和48(1973)、北海道記念保護樹木指定。	北海道記念保護樹木指定台帳	
184	5 静内町	1 有形	1 現存	5 伝統	99 その他	シャクシャイン記念館	真歌	昭和53	1978	北海道の先住民たちの有形無形の文化財を保存し、民族文化の交流や研修などの施設として、北海道ウタリ協会が管理している。	増補改訂静内町史下巻、日高支庁HP	
186	5 静内町	1 有形	2 非現存	3 生活	99 その他	有勢内温泉	東静内から3km	不明	不明	管内唯一の鉄鉱泉で、旅館春光園があった。	史跡と名勝、日高今昔叢誌	

番号	コード						名称	所在地	年代		由緒由来の概要	資料名
	町名	有形・無形	現存・非現存	大分類	中分類	和暦			西暦			
185	5 静内町	1 有形	2 非現存	1 産業	99 その他	静内会所	東静内	享和2	1802	寛政11(1799)に幕府が静内場所を直轄支配した際、連上屋を静内会所と改め、行政機能を持たせた。当時の会所は今の元静内にあったが、その後、東静内に移転し、享和3(1803)には新築されて明治期まで姿をとどめた。	増補改訂静内町史上巻、下巻	
187	5 静内町	2 無形	2 非現存	1 産業	99 その他	静内場所	静内郡一帯	不明	不明	場所制度とは、蝦夷地では米作がなく石高制をもって家臣の給料を定めることができなかったため、松前藩が交易その他による収益を見込んで各地を場所と区分し、これを知行として家臣に配分する方法で、当初「オムシャ」といわれる方法でアイヌの人々と交易を行っていたが、その後、場所請負制がとられ、請負人や支配人によって運営されるようになったが、アイヌの人々を酷使し、また、不当な交易をすることが多かったといわれる。天正、慶長時代(1500後～1600前)には既に開設されており、寛文年間には松前藩士蛸崎七右衛門、太田猪兵衛、新井田権之介らが知行主であった。 天明5(1785)には函館の倉部屋太兵衛が請け負った。天明6(1786)には今の元静内を中心とした場所は藩主直領で、シツナイ場所とシフチャリ場所の一部を倉部屋が請け負い、シウチャリ場所の一部を松前の山田太兵衛が請け負った。 寛政11(1799)には幕府の直掎となり、連上屋を静内会所と改めたが、文化9(1812)に幕府は直掎き制を廃止し、入札によって請負人を定めることとし、直轄以前の阿部屋伝吉が落札し、文化10(1813)から7年間請負人となった。 明治2(1869)には場所請負制度が廃止され、漁場持制度となり、暫定的に場所請負人に継続させた。静内では函館の山田栄六が漁場持となったが、水産税の滞納が原因で明治8(1875)に失脚し、明治10(1877)には漁場持制度も廃止された。	増補改訂静内町史上巻、下巻	